

ウルトラトレイル・マウントフジ 2019 事業報告会議事録

日時 : 2019年7月4日(木) 13時30分~15時15分

会場 : ふじさんミュージアム 会議室

議題 (1)開催報告

(2)環境モニタリング調査報告

(3)今後の対応及び次回大会について

(4)その他、質疑応答

出席者一覧

No	所属	所属・部署	氏名
1	環境省 富士五湖管理官事務所		齋藤天道様
2	静岡県くらし・環境部環境局	自然保護課	新貝佳代子様
3			山上達也様
4			中村美穂様
5	山梨県森林環境部	みどり自然課	前島みどり様
6	山梨県森林環境部峡南林務環境事務所	森づくり推進課	中桐秀晴様
7	富士山エコレンジャー		吉永耕一様
8			小島正様
9			星野輝一様
10			福原みさよ様
11	日本野鳥の会	富士山麓支部 事務局	水越文孝様
12	富士五湖消防本部	警防課	渡辺英男様
13	株式会社時之栖	営業部	加藤弘一朗様
14	富士トレイルランナーズ倶楽部 ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会	代表理事 実行委員長	鏑木毅
15	富士トレイルランナーズ倶楽部 ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会	理事 副実行委員長	福田六花
16	富士トレイルランナーズ倶楽部 ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会	理事 実行委員	中尾益巳
17	富士トレイルランナーズ倶楽部 ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会	理事 実行委員	三浦務
18	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会	事務局長	千葉達雄
19	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会	事務局	神谷知里
20	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会	事務局	秋本康晴
21	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会	事務局	倉原卓也
22	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会	事務局	鈴木雅子
23	富士宮市	教育委員会 スポーツ振興課	山田知生
24		教育委員会 スポーツ振興課	高橋賢太
25	身延町	企画政策課	内藤伸一
26		みのぶ観光センター	若林由美
27	鳴沢村	教育委員会	渡邊龍
28	富士河口湖町	生涯学習課	中村拓郎
29	山中湖村	観光産業課	坂本雅和
30	御殿場市	2020オリンピック・パラリンピック課	金子泰郎
31		富士山ツーリズム御殿場実行委員会	田近義博
32		富士山ツーリズム御殿場実行委員会	関谷正太郎
出席者 各団体：13名 UTMF理事：4名 事務局：5名 9市町村：10名 合計：32名			

< 鑄木実行委員長 挨拶 >

本日はお足元の悪い中、お集まりいただきありがとうございます。

ウルトラトレイル・マウントフジは7回目を終えることが出来ました。

現在、国内にはトレイルランニング人口は30万人、大会数は400と言われており、アジアでは1000を超える大会、総人口は100万人を超えるなど大きな支持をされているスポーツとなっております。ウルトラトレイル・マウントフジはアジア最大級の大会で、富士山という憧れもあり、39カ国の世界各国から集まっていただきました。

その中で、今回非常に大きな予想しなかった事態が起き、レース短縮ということになりましたが、多くのスタッフ、地元の方々の迅速な対応により、大きなトラブルもなく終了することができました。これは過去6回開催した賜物もあり、安定した運営ができました。

本日は、忌憚のないご意見を賜ればと思います。頂いたご意見は次回大会に活かしていきたいと思えます。よろしく願いいたします。

< 事務局長 千葉 >

本日いただいたご意見を元に、最終的には実行委員会にて今後の対応および次回大会の方針を決めさせていただきます。予めご了承ください。

(1)開催報告

(配布資料 開催報告書に沿ってご説明)

< 事務局長 千葉 >

○開催数：本年度で7回目の開催。

○日程：4月26日から28日までの3日間で開催。

○種目：大会持続性と安全管理のため、STYをやめ、UTMF一種目で開催。

○レース短縮：初日は雨が残り、その後に天候が回復する予報だったので、開催し進めて行ったが、天候予報が外れた。翌27日に山梨側に積雪があり、降雪、凍結のリスクが増大し、27日15時にレース短縮を決断した。

○コース：165kmが本来のウルトラトレイル・マウントフジ。

○大会結果：レース短縮の影響から、UTMF以外に5つのカテゴリーを設け6カテゴリーとした。トップアスリート91名は165kmUTMFを完走しており、国際レースとしてはレベルが高かった。2,450名出走中1,810名が6カテゴリーの完走者数。レース短縮の影響もあり多くの方が127km山中湖で終了しており、山梨側の通過人数は大幅に減少した。

○大会来場者数：悪天候ではあったが、選手・応援者含め、大池公園5,000名、富士山こども園で3,000名の来場があった。

○ボランティア・スタッフ：約1,500名。

○大会中救助要請対応件数：47件。出動10件。

○国・地域別エントリー数：39カ国(エントリーの20%)。最近はとくにタイが増えた。

○媒体掲載(別紙資料)：本年は読売新聞の一面に掲載いただいた。トレイルランニングの社会的認知度があがっている。

(2)環境モニタリング調査報告および(3)今後の対応及び次回大会について
(配布資料 モニタリング報告書に沿ってご説明)

モニタリングは環境省のモニタリング指針に従って2種類行っている。

○環境影響モニタリング：主に写真撮影と、歩道の幅、洗掘状況、斜度計測によって事前事後でどの程度の違いがあったかを調査。

実施場所：エリア1～11の箇所、各エリア5箇所ごとに地点を選び実施。

○利用影響モニタリング：大会開催中に大会関係者以外の方々に話を伺い、大会のことを知っているかどうかや、大会実施により何か不都合がないか等を調査。

実施場所：道の駅かつやま、石割山神社駐車場、明神山パノラマ台の3箇所。

○モニタリング調査実施日

4月13日から5月6日にかけて実施。

○気象状況

4月27日に降水量が30.5mmあり、結果としてレース短縮した。

大会の1週間前、3日前、1日前に大会開催会議をし、トレイル歩道の状況や安全面の確認をし、通常ルートにするか迂回ルートにするか決めている。本年は懸念箇所も一日前に鎬木が行き確認し、天気予報も確認した上で実施したが、結果的には気象が我々の見込みとは違う結果になり、歩道に影響を与えてしまった。

○積雪について

大会前は積雪ゼロだったが、おそらく27日だけで、これだけの積雪だったと認識している。

○モニタリング結果

スタート日と翌日に関して、予想に反する天候で、静岡県側で主に多数の影響がみられた。

[静岡県側]

天子ヶ岳：歩道の拡幅が見られた。

熊森山：歩道の拡幅と凸凹が見られた。

上記2つは、急な上りもしくは急な下りのため、雨が降ると支持力が無くなり、非常に滑り

やすくなり、歩道に滑った跡やそれを避けていくということが起きてしまった。

富士宮市の根原～端峠：歩道の拡幅と凸凹の影響が見られた。

竜ヶ岳(静岡山梨またいでいる)：雨が降ると土壌がゆるく、ぬかるみやすい性質を持っている。歩道の拡幅と凸凹が見られた。ショートカットも見られた。

[山梨側]

佛峠～中野倉山：事前の歩道幅より広く踏み跡がついていた。元々不明瞭ではあるが、踏み跡が広がった跡があった。

足和田山：事前の歩道幅より踏み跡が広がった。

明神山～切通峠：元々不明瞭な場所ではあったが複線化が見られた。417名しか通行していないが影響があったので、トップ選手への啓発も必要と感じた。

○利用影響モニタリング

天候が悪くなってしまったため、元々の利用者が少なかった。

・大会によるトラブルはあったか？

→選手と接触しそうになった2件

・気をつけてほしいこと

→追い抜きやすれ違いに対する配慮。これは普通の道路も利用しているが、濃霧による車との接触が危なく見えるという声を各所でいただいた。

・ウルトラトレイル・マウントフジの大会認知度は15%から37%と増えた。

○その他

・2018年に影響が見られた竜ヶ岳、佛峠～中ノ倉に関しては、1年の間に回復と言いますか大きな変化は見られなかった。

・長者ヶ岳においては、土壌の硬化は見られなかったが、これはその時の雨量によって変わってしまうというのもある。天候に左右されることは考慮した方が良い。

・モニタリング箇所には含まれていないが、東京電力さんの送電線下や麓～根原の東海自然歩道は広範囲で歩道の踏み跡や凸凹が見られた。

・明神山～二十曲～杓子山にかけては、通った人が少ないこともあり、27日の積雪による歩道への影響は確認されなかった。

○次回大会における留意点

雨量自体は 2018 年大会に比べて少なかったが、歩道に影響が起こった。

ア)歩道に影響が出にくいコース選定をすべき。

イ)事前の整備、歩道外へのはみ出し対策を強化していく。

ウ)天候の影響で予想と違ってしまったということが 2016 年に続き起ったので、歩道への影響があることを想定し、整備日程等を事前に組んで運営をすべき。

エ)今回選手の絶対数は変えていないが、1 つのレースにしたことで、一斉に 2,400 名が移動した。それに起因する、選手目線で渋滞、環境目線で渋滞による追い越しで歩道の拡幅や複線化が起きた。

オ)大会側としては、歩道でののはみ出しやショートカットは禁止しているが、人数が 500 人に満たないところでもはみ出しやショートカットが起きた。上位選手に対しても強い啓発をしていく必要がある。

カ)大会の告知、一般登山者への配慮に関して、接触しそうになったということが 2 件あったことと、歩道だけでなく、それに付随する近くの道路に関しても、選手が延べ 2,400 人通過することで、天候が悪い霧や夜間への心配の声を調査以外でもいただいている。引き続き大会の告知、案内をしていくことが必要。

(59 ページ) 事前と事後で凸凹になっている高さが 10cm 以上になっている箇所があり、大会後にそのままの形状に固まってしまっていた所が竜ヶ岳を中心にあった。そのため許可をいただき復旧整備を行った。

(65 ページ) むかるんでいても大多数の人は歩道からはみ出さないようにしているので、両足の形にそってワダチのようになってしまった。竜ヶ岳ではそのような箇所が多数見られた。

○原状復旧整備

(配布資料 原状復旧整備報告書に沿ってご説明)

大会中、大会後から、すぐに各歩道管理者、土地所有者に許可をとり、原状復旧整備活動を行った。

竜ヶ岳、東海自然歩道、熊森山、送電線下巡視路を含めて、距離 17km、日数 10 日、延べ人数 117 名で実施を行った。我々の考えではトレイルランナーの方々にまずは現状を知ってもらい、整備をしていくことが大切。「歩道を大切にしないといけない」、「自然を大切にしよう」という良い機会にはなり、事務局以外で 88 名が全国各地から集まった。

基本は原状復旧作業なので、凸凹になった箇所をジョレンでならし、踏み固める作業がメインだが、それ以外にも木段がずれてしまった箇所を再度設置し直した(15 ページ)。あくまで原状復旧なので、元々階段がないところは設置していない。

7月2日に原状復旧作業は完了した。

(4)その他、質疑応答

<富士山エコレンジャー 吉永 様>

私たちは南麓を中心にボランティアにより、自然環境の保全とパトロールを行い、環境を守り、次世代の子供たちに自然を引き継ぎたいという団体の1人。

2012年からUTMFが開催されたが、水ヶ塚を中心とした須山口は、元々私たちの環境パトロールエリアでもあるルートなので、引き続きやっております。それから天子ヶ岳の上りのあたりも環境パトロールし、記録も残しているグループ。

(以下、ツイッターで大会中から直後にUTMF2019ハッシュタグで検索されたツイートの一部)

- ・参加人数が2,400人で多すぎる。
- ・来年以降開催できなくなるか心配。
- ・UTMFでまた山を荒らしてしまった。
- ・落ちているゴミ大過ぎ。意識低すぎ。
- ・オフィシャルコースから外れ、山中を通り我先にはと割り込んでくる。
- ・竜ヶ岳の登山道がボコボコの荒れ放題。登山道崩壊。山を荒らしてしまったことに申し訳ない。
- ・ハイカーにも人気のコースなので荒らしてしまっって苦情がこないか心配。

とくに気になったのが2015年、2016年の須山口の環境。雨の中で1,000人強が走ったことでどうなるのかということ思い出した。2015年、2016年の教訓はどこにあるのか？2015年では全体がドロドロだった。その時の意見交換会の時にもお話ししたと思う。

環境モニタリングをやられて、その中身がほぼ同じ状況だとわかったと思うが、エコレンジャーの意見としては、去年の開催説明で迂回路を設定しているので、熊森山、竜ヶ岳、の迂回路を使う判断基準を設けて同じことを繰り返さないようにやってほしいと言ったが、今回開会式で出れば泥だらけになるのは分かっているのに、スタートさせて2,400人が一斉という状況で、迂回路を使わなかった。将来を考えて検証していただきたい。

3日前の判断では現実的ではないのでは？運営の立場から色々な手配もあるので相当なリスクをかかえて簡単にはできないかもしれないが、環境保全の観点からすると、せつかく設定した迂回路を使わず、いかされないのは次回には対応して、いかしてほしい。これができ

なのであれば実行委員会の管理能力というか責任問題になると思う。自治体も主催されているので、いろんな指摘が毎年あるのに対応できないのであれば困るのでは？と思う。

また、須山口の環境パトロールを月 1 回しているが、原状復旧作業は完了したとおっしゃっているが、どこが完了したのか？その時点では、ジョレンか何かで踏み固めて、元に戻ったように見えるが、雨が降ったら浸食が進むのがたくさんある。補修作業の中身をもっとしっかりやってもらわないと困る。枯れ木や丸太を置くだけでは、富士山の場合は年間降雨量は日本平均が 1,700mm だとすると、熊森山や竜ヶ岳にしても 2,500mm、南麓の 3,500mm まではいかないにしても、何もきちっとしていなければ廃れていき、とても危険な状態になってしまう。木段があるから誰かが足をのけるとすべってしまう。原状復旧作業がおかしいと言っているのではなく、中身の質をあげないと、労力をかけるわりに、みんなで使う歩道が、安全でまわりの自然に親しめる状態じゃなくなる。何度も何度も鏑木さんや千葉さんにも意見交換会で言っているが、雨は今回が初めてではなく、補修作業ひとつにしてもボランティアの境遇はとても大事だと思うし、集まるのは歓迎だが、もっとプロが指揮して指導しないと、富士山の雨がたくさん降るところでやるのであれば防水処理や立杭の太さがこれでいいのか等ちゃんとやって頂きたい。箱根駅伝のように何十年も続けてというのであれば本気でやっていただきたい。

迂回路をぜひ使用していただきたいということと、補修作業の質の向上ということ。

<事務局長 千葉>

迂回路の件に関しては、おっしゃる通りなので、迂回路のやり方、決め方は再検討しないといけないと考えている。

また、2,400 人の一斉スタートは問題があると認識しているので、参加者人数を大きく分けて、時間差にして最低でも過去の大会レベルまで同時人数は落としたいと考えており、NPO でもんで実行委員会で話したいと思っている。

須山については、やりっぱなしで終わるつもりはなく、今年もやる予定で進めている。我々の調査でも一部木段が腐っている箇所が見受けられているので、元々大会コースとして使わせてもらっていて普段須山口登山歩道でない部分もあるので、そこを全撤去した方がいいのか、みなさん使えるようにした方がいいのか、今年、保存会の方々と相談し進めていきたい。

<富士山エコレンジャー 吉永 様>

黒塚を通過して元々の歩道のなかった、木段のなかったところについては、裾野市山岳協会が作られている須山口のホームページを見ると書いてある、一般のハイカーが通る可能性もある。

<事務局長 千葉>

整備についてはプロの方がというお話がありましたが、それもおっしゃる通り。長年の課題としてやっており、本年から大会予算と環境予算を分けてやっているの、須山口の所はご意見を聞きながら、ご指導頂きながらやっていきたいと思うので、まだ第一歩ではあるが、また見て頂いてご意見頂けたらと思う。

<富士山エコレンジャー 吉永 様>

遅いよね。

<事務局長 千葉>

おっしゃる通りですが、財源をとってこれから持続可能な方法でやっていくので、これに懲りずご指導頂ければと思う。

<富士山エコレンジャー 吉永 様>

主催者に地方自治体の方がいるわけでしょう。行政は縦割りというのが多いかもしれないが、保全をやっている行政の人たちもいるわけなんだから、みんなの歩道でハイカーさんもいるのだから、もう少し対応を早くしていただきたい。

<環境省 富士五湖管理官事務所 齋藤 様>

土嚢の関係でモニタリングの結果によって洗掘箇所などが出てきている部分で、モニタリングをして原状復旧も大事だが、ぬかるみやすい箇所や工事をしなくてはならない場所など、今の方向性でおっしゃっていた部分は抜本的に歩道としての整備具合を変えていくなどあると思うが、あとは複線化しやすい部分は当日仮設などで柵を立てたりマットを敷くなど具体的な措置をすとか、雨など当日の降雨量など読めない部分があるが事前に対応していかないといけないのではと感じた。

日々改善していますということを示していかないと、抜本的に出来る部分とできない部分があると思うが、徐々に進めていける部分があると一般論として思う。

<事務局長 千葉>

ありがとうございます。一部、事前養生は土嚢を積んだりということを昨年（前回大会）から始めている部分もある、他の大会の事例なども見ながらもっと進めていきたい。

<環境省 富士五湖管理官事務所 齋藤 様>

どれだけ荒れてしまっても現状復旧をやるというよりは、最初のインパクトを抑えるというのも大事だと思う。一時的にも（荒れたことが）目立つと印象も悪くなってしまい、みん

な不幸になってしまっていたと思うので、事前の対策も必要かなと思う。

<事務局長 千葉>

ありがとうございます。

ご意見をいただいていた野鳥に関して、4社の環境リサーチやアセスメントの会社、および研究所に相談した。

各社さまざまな話をいただいたが、鳥類モニタリング調査をする際の影響の判断は非常に難しく一か所を調査すれば結果が出るかという話でもない、それをもって「問題ない」という話であれば逆にそのほうが問題だということ。本気でやりたいのであれば、大規模に10年かけてお金をかけてやる必要があるとのこと。影響があるかないかということ言えば、当然影響はあるという意見もあれば、それほど影響はないのではという意見もあった。

具体的な開催時期について、春季にするしかないということであれば4月第1・2週であれば影響が少なくなるのではと提案いただいたところもあった。このことに関しては大会前に鏑木も含め議論したが、結果として今年は第4週であっても積雪という大きな問題が出てしまい、今のところのNPOの方針としては4月第1・2週に動かすということは難しいと考えている。実行委員会ではまだ議論していないので、改めて議論していく。

<富士山エコレンジャー 吉永 様>

千葉さんにお渡しした資料の中にあるが、環境パトロールをしている中で富士山周辺の外来種がここ数年目立つようになってきた。今まで具体的な対応として、靴を洗うように指示を出しているとあったが、全エイドでやっているのか？国際大会＝アジア最大の大会ということでたくさんの海外の方がみえるので、実行委員会の意見を知りたい。

<事務局長 千葉>

外来種対策に関しては、装備品チェック（出走前の荷物確認）で靴をしっかりと洗うことは行っている。そこで外来種をストップしている。エイドでは行っていない。

<富士山エコレンジャー 吉永 様>

仕組みを作ったというのも聞いたことがあったが、可能な限りやっていただいてランナーにも協力していただきたい。いま、富士山の周辺で外来種が目立ち始めていて、本当に大変。

<事務局長 千葉>

わかりました。

<環境省 富士五湖管理官事務所 齋藤 様>
モニタリング報告書は毎年公表されているか？
→しています。(事務局長 千葉)

基本はこのまま？復旧報告書は？
→復旧作業をここまでやったことはないが、何らかの形で報告しようと思っている。(事務局長 千葉)

公表されているのであれば良いので、やっていることについては胸を張って公表してよいと思う。他大会など報告書を公表していないところもあるので、こういった大きな大会では情報開示という意味でも今後も公表してもらえれば。
→ありがとうございます。当大会は環境省さんのご指導の下、説明会などで使う運営計画書やモニタリング報告書も数年前から公表している。(事務局長 千葉)

<日本野鳥の会 富士山麓支部 水越 様>
鳥類のモニタリングを 4 社に頼んだとのことで、資料にはないが具体的にはどちらでしょうか？

<事務局長 千葉>
お聞きした会社や団体に、公表する許可をとっていないので、内容は差し控えさせていただきます。

<日本野鳥の会 富士山麓支部 水越 様>
実際に調査はしたのか？
<事務局長 千葉>
調査はしておらず、調査をする依頼をした。

<環境省 富士五湖管理官事務所 齋藤 様>
野鳥のモニタリングについて確認：4 社にヒアリングして、実行委員会で共有したということか？

<事務局長 千葉>
研究所は別だが、ほか 3 社にはモニタリング調査ができるか問い合わせた。結果的に、時期的にすぐにはできないということと、費用の問題でお断りされた。研究所に関してはご意見をいただいた。

<山梨県森林環境部 峡南林務環境事務所 森づくり推進課 中桐 様>

今年は復旧作業をされて、昨年大変だった部分にだいぶアプローチされていて頭はさがるが、問題としては利用者がどのように道を持続的に維持するのかという部分が重要かと思う。山梨の場合だと一部は県や観光の担当が管理している部分があるが、市町村や管理者自体が定まっていないというところもあり、維持の部分まで割けないのが実態。大会やトレランでたくさん利用するということは道へのダメージは非常に大きいですが、利用者が道の管理に主体的に関わっていくということが進んでいけば、利用することが問題だというよりは積極的に利用して積極的に維持するというのが良いのだろうと思うが、実行委員会としては将来的にどんな形が理想的か？

また、今回のように人数が多い場合、インパクトの大きさと維持管理を考えた場合、どの程度の範囲なら適正であるか、それに対してどのように維持に関わっていくのか？

<実行委員長 鏑木>

この大会の趣旨や発端は、大会ありきと言うよりはまずは富士山周辺のトレイルを含めた周辺整備と地域振興、年間を通してトレイルランナーだけではなくハイカーの皆さんもトレイルを楽しんでもらえる環境を作っていきたい、そのひとつのシンボリックなものとして年1回のUTMF、というのがNPOの趣旨としてある。

今までなかなかできなかったが、今年度からは財源を確保して整備の費用にあてていきたい。我々の本当にやりたいことに近づいてきている。

そういった意味ではトレイル整備事業は、いろいろな方を巻き込んで進めていきたい。

<事務局長 千葉>

今年から環境事業をわけたので具体的にやっていきたいこととして、

具体的には、静岡県富士宮市の天子ヶ岳は我々が把握している限り歩道管理者がいない状態。静岡県と山梨県の境界線。東海自然歩道以外の歩道管理は誰もしていないのが現実。そういった状況はここだけの問題ではなく多くあるので、何らかの形で天子ヶ岳の歩道を治すことをしていきたい。現実には地元の有志が木を切ったり整備している状況。国立公園でもどのように整備していくかは難しい現実だとは思いますが、NPOとして仕組みを作ってしっかりやっていきたいと思っている。

大きな課題は、日本だと歩道管理責任が重くのしかかる。台風や事故があった場合にその責任は誰にあるのかということが現状日本では歩道管理者への責任が大きいため、管理者として手を挙げにくい状況なのでは。行政も含めいろいろな方と相談させていただき、日本の風土に合ったやりかたがあればいいと思う。海外の事例なども調べてはいるが、なかなか同じようにはいかないなので、逆に良い仕組みがあれば教えていただきたい。我々はやる気もあるし、トレイルランナーも参画したい人はたくさんいるので、良い仕組みができるとよいと

思う。

＜山梨県森林環境部 峡南林務環境事務所 森づくり推進課 中桐 様＞

山梨県南アルプス市の事例で、県有地ではあるが県が管理する状態ではない登山道を南アルプス市が主体的に管理すべきだということで踏み切っていただいたことがある。民間が主体となって道を管理するというのは難しいところがあるので、地元の市町村が管理するのが理想だと思う。ただ、市町村がすべて担うのではなく、地元の環境団体などと連携しながらやっている。補修やパトロールはある程度の頻度で地元の団体が行き、補修についてはレベルに応じて地元団体や市が予算を組んで進めている。

天子山地は底地が個人か国有林だと思うが、個人から市が借りることになるかは別として、市が管理していきますという形をとった上で連携していくという方法が妥当では。

＜環境省 富士五湖管理官事務所 齋藤 様＞

実際に管理者が不在の歩道が多いのが現状だが、既存の道について何でも許可がないといじれないかというところというわけではない。位置づけがあるなしに関わらず道のメンテナンスは必要なこと。ただ、自然公園法の位置づけも含め実際に管理主体がいたほうがお金をかけた補修などはしやすいということはある。私の想像になるが、管理主体を持ってやっていただきたいという意思があるのなら、UTMF 実行委員会に各市町村が入っているので、各市町村が UTMF としてやっていくことに任務責任を感じているのであれば各自治体が責任を持ちましょうという流れになるのが自然なのでは。市町村と対話をして、地域に寄与したい意向や、富士山が見える展望地として地域を活性化していくことに対してどうなのかなど、位置づけや理由がないと市町村も難しいと思う。コミュニケーションをとっていけば前向きな歩道管理には可能性があると思う。

＜実行委員 中尾＞

利用者が歩道管理をするということについて、UTMF では環境活動を進めている報告書がある。

本栖湖周辺登山道と須山口登山道において、トレイルランナーと地元の方々が一緒になって補修保全をすすめている。確かにすべて出来ているかというところではない部分もあるが、トレイルランナーが大会ボランティアではなく持続的にトレイルを整備していくボランティアとして活動している。いつかここを走りたいとか、世界の選手がここを走るのが嬉しいという思いで活動に参加してくれているランナーもいて、少しずつではあるが増えてきている。

一緒に進めているのは地元の行政から委託を受けている団体、トレイルランナーと地元・行政と結びついて活動ができている。将来的には富士山全域に渡って活動できれば。実際には

まだほんの一部。

<事務局長 千葉>

我々の方針としては、より多くの富士山に関わる方々と協力して進めていきたい。天子ヶ岳という話をあげたが、いつまでにどのくらいという具体的な目標はあえて言わないようにしている。大会の影響があるかどうかというフォーカスの議論になりすぎてしまうことが考えられ、どのように使うかという議論にならなかった過去もあるため。より多くの方々と対話をしながら、我々がやったことが間違えてしまっていることもあると思うので、こういった機会をいただきながら、試行錯誤をお互い認め合ったなかで進めていければと思う。専門家の話を聞きながらレベルアップしながら進めていく。具体的にどうなるのかというご意見をいただくこともあるが、ひとくくりで良い悪いといえない部分もあるので、試行錯誤を繰り返し時にはご意見をいただいて、時には我々が悪いところは直し、時には我々の意見も聞いていただいて、進めていきたい。

<富士山エコレンジャー 吉永 様>

須山口の整備について、ずっと議論もあったとのことだが、やる時は僕たちも呼んでください。作業をやめてくださいとお願いするかもしれない。作業場所は生物多様性のホットスポットでもあるので、後退はしないが人が多く来たりすると問題が多くなる可能性もある。利用協議会のような形で裾野市や静岡市や環境省など行政にも入ってもらってやってほしい。例えば、絶滅危惧種があるかもしれないのであればそれ相応の利用の仕方も考えなくてはいけない。議論も必要。議論が全くなく作業しただけというのは片手落ち。自然に親しみながら自然を大切にしながら自然を利用し作業をしていくというのが本来の互いの趣旨だと思う。私たちも、トレランが良くないということを言っているつもりはない、野外活動の良さもあると思っている。きちんと協議できるような場を作った上で、須山口などをどうしていか行政に声をかけてどのように直していったらよいか、直す場所がどのようなところかということも説明しますから、そういうことを積み重ねていきましょう。

<事務局長 千葉>

ありがとうございます。

<富士山エコレンジャー 小島 様>

作業の様子の写真を見ると、ザックを担いだまま作業をしているが、本当に作業しているのか？力が入らないのでは。担いだままだと危ない。

<事務局長 千葉>

もちろん作業はしているが、安全面のことを考えるとたしかに危ない。そのような観点はな

かった。作業は、一度崩したところを均すようなかんじであまり力は使わないので、作業自体はしっかりやっている。トレイルランナーは普段ザックを背負って行動しているのでそのまま作業もしてしまっていて、安全面という考え方がなかった、ご意見としてありがとうございます。

<富士山エコレンジャー 小島 様>

(大会を) 過去に何度もやっていて何度も雨が降っている。富士山が怒っているのではと思う。やっぱり (大会を) 止めた方が良いのでは。

<事務局長 千葉>

ご意見として、ありがとうございます。

<静岡県くらし・環境部環境局 自然保護課 新貝 様>

4月26日にスタートしてから27日の15時頃、コース短縮の決定がなされるまでの間、雨天の中、多くの参加者が自然荒廃の進んでいる歩道を走行する結果となりました。どうしても、雨の中、多くのランナーが走ると、安全上の問題はもちろん、歩道が荒廃するリスクが高まりますので、大会中止の判断が難しいことは分かりますが、こういった場合に大会中止やコース短縮の決定をするのか、その判断基準を明確にしていきたい。

また、事前養生の対策については、これまでの経験を踏まえてご対応いただいていると思いますが、天候が悪くなる可能性も含め、状況に応じた保全措置をしっかりとっていただきたい。

<事務局長 千葉>

ありがとうございました。

<静岡県くらし・環境部環境局 自然保護課 山下 様>

1年で現状復旧していたということなのですが、現状復旧の基準がよくわからない。危ないところは土壌を積んだりしているとのことですが、土嚢の中の土はどこから持ってきているのか?補修の設置法を指導している人がいたのか?

<事務局長 千葉>

なにをもって回復かという概念に関しまして、明確のものが無いのが現実です。ただモニタリング調査をしている者が昨年と比べて変化がなかったということを含めて回復したと認識している。

原状復旧作業をするという判断基準は、関係者様とコミュニケーションをとって相談して場所ごとに判断している。

木段の設置の専門家は今回はいない。

土嚢の土は周辺の土を使わせていただいている。土石採取の問題があるのは認識している。

<事務局長 千葉>

非営業法人富士トレイルランナーズ倶楽部としての次回大会の方針として開催時期は4月末で行えるように実行委員会に図りたいと思っている。参加者人数の変更はしないが、少なくとも2つにわけて時間差をつけて歩道の滞留差を低減させたいと思っている。そして大会開催会議のやり方と特に竜ヶ岳の使い方に関しては再検討を行う。この3つの方針で進めていきたいと思う。

<副実行委員長 福田>

今日いただいたお話はすべ持ち帰って来年以降にしっかりやっっていこうと思います。

今日の会議だけを見ているとUTMF悪いことばかりしているのではないかとぼこぼこに責められている感じはありますが、UTMFは開催されるということでいいことがたくさんあると我々自負しております。例えば海外から人がいっぱいいらっしゃるということは地域振興というに貢献していると思います。そしてコースの問題は整備が難しい部分もあるのですが、ゴミを拾うぐらいでもいいのかなという思いもあり、私はずっと山梨県のコースを管理しているのですが、今UTMFのコースはほとんどゴミが落ちていません。いまままで昭和のゴミがたくさんあったんです。通算何キロも拾いました。地元の方々やハイキング同好会の方々にもこのレース始まってから山がきれいになったと言っていたらレースをやったことに意義があったんだなと思います。

もう1つこれは私個人で思っていることですが、UTMFをやる一番の意義というのは日本人の健康だと思っています。私自身が医者の不養生でして29歳の時は体重が90kg以上になっておりまして、本当に劣悪な環境で仕事をしていかななくてはいけないのでストレスで暴飲暴食に励んで狭心症の症状も出て、放っておいたら35歳くらいで死んじゃったかなと。34歳でたまたま走ることに巡り合いました、人生がまったくがらっと変わりました。走ることで自然に親しむということで心身の健康を取り戻しました。それは多くの人に伝えたいなと思うところであります。

そんなことは各自でやれば良いと思いますけども、東京のど真ん中で育って生活しておりますとほとんどの人間は自然に親しむ機会はないし、そういう効能も知らないですね。私も全くそういうことを知らなかった中でたまたまトレイルランに巡り合って健康を取り戻して本当に命拾いしました。

ちょっと深い話になりますが、日本の医療費は年間約402兆円、その中で生活習慣病に要するのは14兆円とも言われています。ランナーの中には生活習慣病の人はほとんどいません。今現在この15年で日本人も走る人が増えていまして、ランナー人口は約800万人、トレイルランをしている人は30万人とも言われています。そのなかでほとんど生活習慣病の方

はいらっしゃいませんので、トレイルランをやるということは非常に健康に適していると。では富士山でやらないで他でやればいいじゃないかというご意見もあるとは思いますが、富士山の周りを回るトレランをやっている。走ってみようやってみようということで走り始めて実際に健康になったという事実があって、それが実は一番大事と思っています。今私は富士河口湖町のご老人をほとんど診させていただいている立場にいるのですが、人生100年時代、少子高齢化社会で支えていく人もいない。我々が高齢者になる中で、90歳すぎまで元気であるところどころと死ぬと。そういった人生を歩むべきで、日本中がそういう方向に向いていかないと日本は大変なことになると老人介護最前線にいて思っています、その中でやはり健康のためにUTMFはあるんだなど。私はそういう思いでレースをやっています。

日本の象徴である富士山の周りに人が集まって、これなら参加したいと憧れの気持ちを持って元気になった人はたくさんいます。

だからといって自然を粗末にして良いとは思いませんのでご意見も聞きます。文句も言われるつもりで来ています。言われたことを翌年宿題がすべて片付けられるとは思いませんが、1つ1ついただいた宿題を片付けて頑張っていく所存であります。今後とも引き続きよろしく願いいたします。今日はありがとうございました。

以上

議事録作成

ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会
事務局 秋本 康晴